



ここ見て!たはら

ここ見て!たはら

たはらスナップ

みんなのひろば

おしらせ

おでかけ情報

連載コーナー

Walk Together

ウォーク・トゥギャザー

たはら男女共同参画ニュース

～共に考え・共に歩もう～

田原市男女共同参画のシンボルマーク▶



令和
2年度

男女共同参画啓発作品の入賞作品を紹介します

本市では、男女共同参画の意識啓発を図るため、「家庭や地域、学校や職場などで、性別にかかわらず、みんなが自分らしく生き生きと暮らしていくためにはどのようにすればよいか、日頃から思っていること、感じていること」をテーマに、令和2年12月にマンガと作文の啓発作品を募集しました。募集に対して、マンガは6点(小学生の部4点、一般の部2点)、作文は195点(中学生の部194点、一般の部1点)の応募があり、田原市男女共同参画推進懇話会による審査で、入賞作品が決定しました。たくさんのご応募ありがとうございました。



▲入賞作品と作品に対する講評はこちら

▶企画課 ☎23-3507



作文 中学生の部 最優秀賞

「この社会を変える」 田原中学校3年 藤沢ユリ

※学校・学年は受賞時のもの

最近よく「イクメン」という言葉を耳にします。「イクメン」とは、子育てする男性という意味で、十年ほど前に政府が少子化打開の政策として打ち出したイクメンプロジェクトから一気に広がったと言われていいます。女性が中心で家事や育児をしてきたこれまでの社会で、率先して育児を行う男性が増えてきたことは嬉しいことです。でも、「イクメン」という言葉は、いまだに育児の主体が女性であるという証拠でもあります。なぜなら、男性が積極的に育児に参加することが当たり前の社会では、「イクメン」という言葉は生まれません。

男女共同参画という言葉が新聞やテレビで報道され、学校の授業の中にも登場するようになりました。私は、男女共同参画とは、男女がお互いを尊重し合い、あらゆるところで性別に関係なく、もてる力を発揮できることだと考えています。だから、「イクメン」という言葉を使わなければならないこの社会は、男女共同参画が実現されていないと思っています。

では、男女共同参画が実現されていないこの社会を変えるためには、どうすれば良いのでしょうか。その問題を解く一つのかぎが、「イクメン」の中に隠されていると私は思っています。当然のことながら、子供を産むのは女性です。お腹を痛め、命がけで出産を終えた女性は、交通事故で大けがをした後のようなものだと言われています。そんなボロボロの体で、休む間もなく育児を行う女性は少なくありません。出産や育児の最初において、男性のできることはあまりありません。でも、女性のそばに寄り添い、女性に声をかけ、話し相手になるだけでも女性の負担は減ります。大切なのは、女性の大変さを少しでも分かろうと男性が努力できるかどうかです。「イクメン」とは子育てする男性のことだと最初に言いましたが、インターネットなどで調べてみると、「積極的に子育てを楽しみ、自らも成長する男性」を指すとも書いてありました。つまり、「イクメン」が増えるということは、育児を通して女性の大変さを理解し、何とかしなければと考える男性が増えるということです。このことから、私は「イクメン」の延長線上に男女共同参画の実現があると考えようになりました。

NHK教育テレビに、「おかあさんといっしょ」という長寿番組があります。歌や体操、人形劇など、楽しいことが盛りだくさんなので、子供たちに人気があり、私もよく見ていました。でも、最近になって、同じNHKの衛星放送で「おとうさんといっしょ」という番組があることを見つけました。その番組を見つけたとき、「イクメン」は確実に増えているんだなと感じました。このように社会はますます変わります。良い方向に変わっていけるよう、私も手伝いたいと思います。

◆◆◆お知らせ◆◆◆ 今年度は、中学生を対象に男女共同参画啓発作文の募集を行う予定です。